



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Winter 2022 No.98

コロナウイルス蔓延による変化



日本のコロナウイルス蔓延の状況は、第5波が終わって、2021年11月24日現在、緊急事態宣言は解除されている。

ワクチン接種は進んできたが、国内海外旅行の激減、国内海外出張の激減、海外からの旅行客の激減、飲食の自粛等々、未だにコロナ蔓延前の日常が失われてしまっている。コロナ蔓延に対する個々人の考え方には非常に差があって、組織や企業は悩ましい判断を続けている。

コロナ蔓延の影響で、意図せず、中小企業には不可能とされていたテレビ会議ができるようになった。これはコロナ蔓延で一気に進んだ大きな変化だ。

遠隔地のお客様との、テーマの決まったWEB会議は、その場の雰囲気が感じられないもどかしさは否めないが、移動時間、移動経費の節約となり、関係者が全て参加できるメリットは感じられた。一方、営業活動や、サンプル等の実物を見ながらの打合せは、リアルな打合せが必要と再認識させられ、会食の有用性も再認識させられた。

コロナ蔓延が収まっても、テーマによって必要な場合はリアルな対面打合せ、その他はWEB会議となる可能性が高い。コロナ蔓延以前に比して人の動きが抑制されて人間の行動パターンが変化して消費者の意識が変わってきている。アフターコロナで人間の行動がどう変わるかは分からないが、変化を想定しながら仕事に当たりたい。

モノのサプライチェーンは、世界が一つに繋がっていて、コロナ蔓延によって部品供給が止まって製品が生産できない事態に陥った。このリスク回避の見直しが入る可能性も考えられる。

そんな中、欧州主導で、SDGsや、カーボンニュートラルが叫ばれて、遅れていると言われる日本の企業も、地球環境を考慮した行動を起こさなければいけなくなってきた。欧州自動車メーカーの動きに追従して、数値目標をサプライヤーに課す日本のメーカーも出てきた。大企業だけではなく、順次、中小企業でも対応が迫られてくるだろう。

コロナ蔓延の2年間、学生達は貴重な普通の学生生活を過ごせなかった。私のような高齢者も余命を考えると貴重な時間だった。早くコロナが収まって、全ての人達が、自由に行動できるようになるのを祈りたい。

アサヒ繊維工業株式会社

代表取締役社長

浅井耕治

第25回 定時総会（議事・表彰）

日 時：2021年10月27日 14時30分～15時50分

場 所：アルカディア市ヶ谷私学会館

参 加 者：61名

第25回定時総会がアルカディア市ヶ谷私学会館にて開催された。新型コロナウイルス感染予防のため、会場参加者の人数を抑えると共にオンライン参加を併用し、計61名が参加して行われた。

第一号議案「第25期の事業報告及び会計報告」では、コロナ禍で一部の行事が延期又は見合わせとなったが、オンラインにより7件の行事開催及び53回の委員会等の開催が報告され、会計報告と併せて承認された。第二号議案「役員改選」では、第26期の新幹事として大洋産業株式会社の小田柿喜暢氏と横浜国立大学の中村一穂氏が推薦され承認された。第三号議案「規定改訂」では、「入会金および会費に関する規定」の個人会員及び特別個人会員の会費の変更及び事業所会員の削除などの変更が承認された。第四号議案「第26期の事業計画と予算案」では、初めに細谷代表幹事から第26期の幹事会の運営方針及び目標が発表され、引続き各委員長から第25期の実績を踏まえた第26期の計画、目標、メンバー構成等が発表され、予算案と併せて承認された。

表彰式では団体表彰として、株式会社クボタ、長瀬フィルター株式会社、ヤマシンフィルタ株式会社の3社が、個人表彰として、安積覚氏、佐藤一彦氏、汐見千佳氏、八巻由孝氏、茂野和彦氏、小田柿喜暢氏、河内智邦氏、角博明氏、農本大安氏、初川拓朗氏、三井貴道氏、柳澤真木子氏の12名（順不同、敬称略）が表彰された。

〈LFPI事務局長 諏訪 秀行〉



会場参加した表彰者



総会風景

第25回 定時総会（講演会）

総会に続いて行われた特別講演会では、日本初のアスリートフードマイスターである、村山彩様（ロバスト株式会社代表）よりご講演いただきました。

村山様は、メディア勤務のときに体調を崩したことがきっかけで食を見直し、体づくりに取り組んだ結果、国内外のトライアスロン大会で優勝、その知見を活かしてアスリート向けの食事指導やダイエットレシピ開発、食と運動のセミナー講師などで幅広く活躍されています。

日々の食事が生活や仕事の質にも大きく影響することから、今回は「パフォーマンスをあげる「食事の軸」の作り方」をテーマに、望ましい食事バランス、メニュー選びで気を付けたいこと、主要な栄養素とその役割、おすすめの食材や取り入れ方など、健康的な食事のために知っておきたい事柄について、具体例をあげながらお話をいただきました。そのうえで、人それぞれに体格や活動量などが違うので、ベストな食事はそれぞれであること。人間の「体幹」のように、自分に合う食事の「軸」を作り楽しく継続することが、健康を保ち、パフォーマンスを上げるのに効果的であることをお話いただきました。

健康管理というと、カロリー計算や食材選びなど大変そうなイメージがありますが、オリンピック選手の食事でも実は昔ながらの一汁三菜が基本だそうです。青魚が苦手なら鮭や鮪などその他の魚に置き換えても良い、一汁三菜が大変な日は具沢山の汁菜でOK、などのお話もあり、軸をぶらさなければシンプルでも臨機応変でも良い、自分の「ベスト」を知ることが大事、というシンプルさは、誰にでも実践しやすい内容だと思いました。

講演は「目の前の一口は未来の自分への投資」という言葉で締めくくられましたが、明日、ひと月後、1年後の自分のために、改めて日々の食事を意識してみてはいかがでしょうか。

〈富士フィルター工業株式会社 柳澤 真木子〉



日本初のアスリートフードマイスター・村山彩様によるご講演



パフォーマンスを上げる食事について話す村山様



講演終了後は、じゃんけん大会の勝者に著書のプレゼントも！

SDGs研究委員会設立のお知らせ

SDGs研究委員会の目指すところ

SDGs達成のためにまず何から手をつけたらよいか？SDGsの取り組みを始めるにあたり、悩ましい問題ではないでしょうか。

SDGsで掲げられた17の目標は、誰もがその重要性・行動の必要性が納得できる目標である一方で、これらの目標はとても高く設定され、環境、社会、経済に関わる多面的な課題の解決が求められます。また、2030年までの限られた期限が設定されており、既に具体的な行動が求められる期間に入っています。

SDGsの取り組み例は日々様々なメディアで目にするようになり、人々の意識改革に伴う製品、サービス、さらには職場の選択、ESG投資による環境負荷の大きな事業への改善圧力の増大など、人々の考え方やビジネス環境も確実に変化してきています。具体的な取り組み活動として、個人の取り組み、大学・研究機関・企業による未来技術の研究開発、自治体、NGO・市民団体によるボランティアや啓蒙活動など様々なレベルで多様な取り組みが行われていますが、SDGsは企業による経済活動が伴わないと実現できないことから、特に経済・ビジネス環境面での変化はこれから本格化するものと思われます。このような状況下、SDGsの取り組みを始めることへのプレッシャーは日々高まってきています。

SDGsは、2030年のあるべき社会の姿から、我々個人、また企業やその事業が、そこで不可欠の存在として意義を見出すことを求めているメッセージでもあります。改めてLFPIの会員企業の事業を考えてみますと、既に持続可能な社会に多大に寄与する事業を本業とする会員企業も数多くあることがわかります。企業における具体的なSDGs達成への取り組み方法として、関連省庁による取り組みガイド(すべての企業が持続的に発展するために(環境省)、SDGs経営ガイド(経産省)ほか)によると、PDCAサイクルを利用した手順が紹介されており、その過程では外部への発信も重要とされています。各企業が既に持っているSDGs達成のための“強み”(技術や取り組み、事業など)を抽出し、積極的に外部発信してアピールすることは特に企業がSDGsを活用する点で極めて重要なポイントとなります。また、このような長所の抽出過程においては、新たな課題も同時に抽出され、新たなSDGsへの取り組みにつながることも期待されます。

LFPIでは、SDGsをより深く理解し、事業活動に活用するために、SDGs研究委員会を立ち上げました。具体的には、会員企業の有するSDGs達成のためのポテンシャルを抽出してホームページなどで紹介するSDGs活動のサポートの検討を開始しています。さらに業界全体に求められる取り組みについても検討し、LFPIの将来の活動にも繋げていく予定です。ビジネス環境の変化に適切に対応した新たな価値創造や経営にSDGsをどのように活用するか、皆さんと一緒に考え、試行錯誤し経験を重ねていきたいと思います。ご関心のある方は是非委員会へのご参加の検討をお願いいたします。

〈SDGs研究委員会 委員長／横浜国立大学 中村 一穂〉



技術委員のつぶやき話(その47)

長瀬フィルター株式会社 坂口 賢治

＜サステナビリティとは何か＞

皆さん、SDGsといった社会課題を自分なりにどのように解釈していますか？ 私はCOVID-19により社会の価値観が大きく変化していることも影響し、サステナビリティは企業活動において最も重要な判断基準の一つと考えています。

企業はどうあるべきか、どんな道を進むのか、これからはあらゆるステークホルダーとの会話の中にサステナビリティの要素が入ってきます。

では、企業が追及するサステナビリティとは何なのでしょう？ それは経済的価値と社会的価値のバランスをとる事だと思います。サステナビリティは慈善事業ではなく、お金を稼ぐ必要があります。経済的価値が下がってしまうと企業が存続しない、それはすなわちサステナブルにならないので、これは意味がありません。ある意味サステナビリティはビジネスの手法であり、収益性を高く、長期的に成功するかを確認する手法であると考えます。

そして、企業の社会的な使命とは一体何か？ そんな事を考えていると、それはどういった社会的使命を負っているのかという視点に変わってきました。企業としてどう貢献し続けて、その結果として企業がどう成長していくか、大事なテーマだと思います。本当に難しく、日々悩んでいます。

そして一つの解釈として、サステナビリティは迷った時の自分たちの進むべき道標だと思います。誠実に正道に正しい行動をすることに注力する。そうやって小さいことも一つ一つ解決していけば、一人ひとりが社会に意味のある影響を与えられるのではないのでしょうか。

より良い世界を実現していく。人々が快適に暮らせる安心安全で温もりのある社会。そういう社会が私たちの子どもたち、あるいは未来に繋がるのではないのでしょうか。

サステナビリティの活動は長く続きます。そして、皆さん全員の参加が必要です。皆さんと議論・協力しながら一步一步進めていきましょう！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました

第24回

十干と十二支

皆様、御自分の干支は言えますか？この問いには「丑年です」「未年です」などほとんどの方が答えられると思います。では十干も含めた干支は？これに答えられる方は少ないのではないのでしょうか。ちなみに筆者の干支は乙巳(きのとのみ)です。このように干支には十二支だけでなく十干というものがあります。今年の干支は寅ですが、正確には壬寅(みずのえのとら)であり、壬(みずのえ)の部分が十干で、寅(とら)の部分が十二支です。この組み合わせが全部で六十(10と12の最小公倍数)ありますので、暦をぐるりと一周した六十歳を「還暦」と呼ぶわけです。

十二支は【子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥】の十二の動物を表す漢字で構成されています。紀元前17世紀頃の殷(いん)の時代、中国では木星の位置が毎年変わり、その周期が12年であること(木星の公転周期)からその方角を表わす記号としてわかりやすい動物をあてはめました。これは今の日本でも残っており、昼の12時の事を「正午」というのは「午の刻」の「正刻」(午の刻は11時から13時なのでその真ん中の12時の事)であることから来ています。

十干は【甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸】の十の漢字で構成されており、陰陽五行思想から来ています。陰陽思想では万物は「陰」と「陽」の2要素に分けられ、五行思想では万物は「木」、「火」、「土」、「金」、「水」の五つの元素から成ると考えられています。陰＝弟、陽＝兄として五元素と併せたものが十干です。例えば「木の兄＝甲(きのえ)」「火の弟＝丁(ひのと)」「土の兄＝戊(つちのえ)」ということです。慶応4年(明治元年)に起きた有名な戊辰戦争はその年の干支が戊辰(つちのえのたつ)であったことに由来しています。十干も今の日本に残っています。例えば契約書の「〇〇会社(以下甲とする)・・・××会社(以下乙とする)」などの表現がそうであり、また「甲乙つけがたい」なども十干を由来としています。

十二支の動物と順番を決めた逸話をご存知の方も多と思います。あるとき神様が動物たちに競争をさせ順番を決めました。このときネズミは牛の背中に乗ってゴール直前で飛び降りて一位になり、猫はネズミに騙され競争の日を間違えたため十二支になれず、それを恨んだ猫が今でもネズミを追いかける原因になっているというものです。しかし世界には十二支に猫が入っている国がいくつもあります。例えばベトナムでは兎(卯)ではなく猫です。同様にチベットやベラルーシでも兎→猫になっています。またブルガリアのように虎(寅)→猫の国もあります。同じ動物でも若干異なった動物が十二支になっている国も多く、猪(亥)→豚(中国、韓国、ベトナム、チベット、ベラルーシ)や牛(丑)→水牛(ベトナム)、鶏(酉)→ガルダ(神話に登場する神鳥)(インド)などがあります。世界、特にアジア・ヨーロッパ地域に十二支があるのは中国紀元の十二支文化がシルクロードを経て伝わったものと考えられています。

さて今年の壬寅はどんな年になるのでしょうか？「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊(はら)む」、「寅」は「蟠(ミミズ)に通じ、春の草木が生ずる」という意味があります。そのため「壬寅」は厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです。まさにコロナ禍で疲弊した世の中がその困難を乗り越え、新たな成長フェーズに入るという素晴らしい一年になる事が予想されています。

コロナなんかに負けるな！

〈メルテックス株式会社 初川 拓朗〉





私たちも頑張ってます! ～若手社員の仕事風景～

アルファ・ラバル株式会社



求められる知識の深さと お客様との共同作業がやりがいです

フード&ウォーター事業本部 食品・ライフサイエンス機器営業部

三井 優斗

当社は遠心分離機をはじめとし、熱交換器やバルブ・ポンプ類、膜ろ過装置、濃縮装置等、非常に多岐にわたる製品を取り扱うメーカーです。

私は2021年1月に入社してから、営業職として主に油脂製造や飲料製造向けの遠心分離機に携わって参りました。この原稿を書かせて頂いている段階で、そろそろ社歴が丸一年になりますが、どれだけ学んでも新たに身に付けるべき知識が尽きず、上長や先輩方に教えて頂きながら、日々勉強しつつ業務に励んでおります。

遠心分離機と一口に言っても、当社のラインナップだけで1,000種類近くの機種があり、その中からお客様のご要望・ご用途に最も適した機種を選定し、ご提案します。この1,000種類の選択肢の中から1種類を絞り込むためには、遠心分離機そのものの知識だけでなく、お客様のアプリケーションに対する理解が非常に重要な要素となるため、難しさを感じる半面、業務の半分はお客様との共同作業に近いものがあり、この点も自分の業務の魅力の一つであると感じております。

2022年の3月に、私が初めて受注を決めた遠心分離機がお客様の現場に納品され、稼働を始めることとなり、私も立ち会う予定でおります。その瞬間が、お客様にとってどんな瞬間になるか、今から興奮が止みません。



私たちも頑張ってます! ～若手社員の仕事風景～

ゼット工業株式会社



仕事の過程を全力で 楽しみながら成長したい

営業部 土屋 翔哉

当社は総合水処理メーカーとして、主に水処理装置とカートリッジフィルターの製造を得意としています。当社製品をご利用頂いているユーザー様は多岐にわたり、様々な分野の産業で活躍しております。私はその中でも、プール・浴場といった循環ろ過装置を中心とした製品の営業活動に従事しています。

私は、2015年に中途採用にて当社へ入社を致しました。学生時代に熱海の旅館にて住み込みで働きながら学校に通学していたという少し変わった経験を持っており、温泉が好きでそれに関わる仕事がしたいというのも入社を決めた動機の一つです。

当社は名古屋市の本社営業所のみで他に営業拠点がない為、基本的には全国各所に営業で訪問しています。お問い合わせ頂いたユーザー様の現場に伺い、現場調査を行うのですが、水質、用途、使用条件、地域性、現場状態により全く条件が異なる為、仕様が様々に変化します。ユーザー様のご希望を伺いながら一緒に仕様を決めていくのですが、一度で仕様が確定する事は珍しく、最低2～3回はヒアリングする事になります。ユーザー様と一緒に仕様を決めていくのがとても楽しく、ユーザー様から相談して良かった等のお声を頂けると嬉しくてこっそりガッツポーズしています。

御注文を頂いて会社へ数字にて貢献する事もとても大切だとは思いますが、その過程を楽しむ事も大切だと考えております。これからも仕事を全力で楽しみながら成長していきたいです。

会からのお知らせ

★開催予定行事の変更

「環境・エネルギー委員会見学会(指宿・種子島)」は予定時期(2022年5月)の新型コロナの動向を見通せないため、中止し、代わりに以下の講演会を開催します。

●リモート講演会

「先進材料科学による環境問題へのアプローチ」

2022年5月19日(水)

詳細は、別途お知らせします。

★バナー広告のご利用されましたか？

会員特典の活用：製品・企業認知度アップ！
会員・閲覧者皆様へのご紹介に最適



効果：コンタクト作り

- ・会員企業様
- ・一般のビジター

リンク：詳細とお申込み

<https://www.lfpi.org/ad/>



会員情報

★新規外部アドバイザーのご紹介

第25回定時総会で特別講演を頂いたロバスト株式会社代表 村山 彩 様が、LFPIの外部アドバイザーに委嘱されました。今後、外部からの客観的な視点で、会の運営方針等についてご意見をいただきます。

編集後記

LFPI会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

私は毎年冬になると、馴染みの割烹で牡蠣の天婦羅を肴に冷酒を頂くのを何よりの愉しみにしております。大振りで熱々の三陸産牡蠣の旨味と、よく冷えた純米酒の旨味による最高のマリージュに魅了されております。しかしこの冬は牡蠣の値段が高い！ 原因は原油高による漁船や輸送トラックの燃料(軽油)代の高騰です。せめて税金(軽油税、消費税)を引き下げるとかして何とかならないのでしょうか。密かな冬の愉しみを奪わないで欲しいと願う今日この頃です。

〈メルテックス株式会社 初川 拓朗〉

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会 ◆ 住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11
◆ TEL：06-6308-1011 (株)トーケミ内 安達 FAX：06-6308-1099
◆ LFPIホームページ <http://www.lfpi.org>